鹿児島県立鹿児島中央高等学校　～自主 好学 敬愛～
進路指導室だより ３月号
発行：進路指導部企画運営係〈平成31年3月25日〉

国公立大 前後期発表　～３年生～

今春入試における国公立大学前期日程・中後期日程試験の合格発表が行われました。54 期生は最後まで粘りを見せて健闘し，数多くの生徒が栄冠を手にしています。

２月 25 日(月)26 日(火)に行われた前期日程試験の合格発表は，３月６日(水)～10 日(日)にかけてありました。54 期生は，名古屋大学１名，九州大学４名，熊本大学 13 名，鹿児島大学 104 名，九州工業大学２名，福岡女子大学２名，北九州市立大学７名など，推薦入試とあわせて，国公立大学の総計で 164 名が合格しました。

また，３月８日(金)に行われた中期日程試験，12 日(月）に行われた後期日程試験の合格発表が，３月 20 日(水)～22 日（金）にかけてあり，鹿児島大学８名をはじめ，16 名が合格しました。今年度の国公立大学合格者は 180 名になりました。

54 期生の最終的な合格状況は，新年度４月発行の『進路指導室だより』等で改めてお伝えする予定です。

合格を勝ち取った 54 期生がいる一方で，涙を呑んだ 54 期生も少なからずいます。新２・３年の皆さんが来年，再来年の受験で合格を勝ち取るには，学力向上のための地道で弛まぬ努力が，今の時期から必要です。新年度を迎えるに当たり，自らの進路希望実現に向けて誓いを立てましょう。

54 期生　合格体験を語る

３年生が１・２年生に大学受験･合格までの体験を語る「先輩と語る会」が３月１４日（金）に行われました。前期試験で合格した 11 名の 54 期生が来て，体育館で後輩たちに向けて自らの体験をパネルディスカッション形式で語ってくれました。どのようにして勉強時間を確保したのか，どのようにしてモチベーションを維持したのか，どのようなペースで勉強したのかなど，在校生が聞きたかった内容を，実体験に基づいて具体的に語ってくれました。

在校生の皆さんは，先輩方が卒業後の自由な時間を割いて学校に来てくれたことに感謝してほしいと思います。また，私服で髪型も自由であるにもかかわらず，相変わらずの礼儀正しさを見せてくれたことも見習いましょう。

新年度に向けて　～１・２年生～

まもなく 55 期生は３年生に，56 期生は２年生になります。４月からの授業は，これまでの学習の基礎基本が身についているという前提で授業が進みます。４月に躓（つまづ）くと１年間苦労することになります。そうならないためには，春休みの課題に取り組みながら，この１年の学習内容に抜けや漏れがないかを確認しましょう。

入試問題のうち約 50%が基本問題，約 30%が応用問題，約 20%が難問と言われています。受験の合否を分けるのは難問よりも基本問題です。今のうちに抜け漏れの無い「圧倒的な基礎力」を身につけましょう。

「受験生」になるための３ステップ

① **進路を決定しよう！**
「絶対〇〇大学に行きたい！」という強い動機を持つことです。本当に行きたい大学があれば，取り組み方も変わってきます。

② **入試までの流れを意識しよう！**
入試までの流れをイメージし，いつまでに何をすべきか，ノートに書き出してみましょう。小さな目標を一つずつ達成することが大切です。

③ **基礎力を強化しよう！**
受験勉強を始めるにあたって，最初に取り組むべきことは，基礎力の定着です。基礎力がなければ，入試問題を解くことはできません。

ステキなことば

２つのことばを紹介します。春休み，しっかり過ごして新学期を迎えましょう。

＊うんと熱中せよ。熱中は熱中を生む。
（ラッセル・Ｈ・コンウェル）

＊私自身の将来は，今この瞬間ここにある。今ここで頑張らずにいつ頑張る。
（尾関宗園）

進路指導室便り３月

２年生の皆さんへ　　２学年主任　安留　光一

２年生最後の進路便りとなりました。４月からはいよいよ３年生。最高学年としてしっかり学校生活を送ってくれることを期待します。１年後の進路のことを真剣に考え，その進路実現のためにしっかり勉強しなさい。君たちの姿を，新２年生，新入生が見ています。見本となるべく鹿児島中央高校生の良き「完成形」となるように努力してほしい。

「主体的に」学ぶということ

大学時代，ある授業で，「フランス語の長文を読む」ことが宿題として課された。フランス語など全くわからぬ受講生たちは，このためにフランス語の辞書を「わざわざ」購入し，わからぬ単語と格闘しながら，調べた単語の意味を適当につなぎ合わせながら，辛うじて読み進めていく。次の授業でその日本語訳が示されたとき，苦労の甲斐あって「意外なほど」よく読めていたことが今でも記憶に残っている。

なぜ今さら，３０年近く前のエピソードを披露したのか。多分君たちも同じような経験を「英語」でしていると思ったからだ。君たちも「適当な」単語の意味のつなぎ合わせで，英語の長文が読めてしまうことがあるだろう。しかし，特に高校に入ってからの長文はそれでは正しく読めないことが多いと思う。そのように読むと，本文の話の筋とは全く違う「君たちの物語」が出来上がってしまう。だから，授業では「文脈に沿った単語の意味」を確認し，あくまで「文法に忠実」に読むことが大切であると強調してきたつもり。

では，どうしたら「正しい」読み方ができるのか。簡単である。「あれっ？」と思うこと。例えば，長文の中に “He is patient.” という文が出てきたとする。もし君たちが「patient = 患者」としか覚えていなければ，「彼は患者である。」と解釈するだろう。しかし，文脈的にどう考えても「病院や入院」の話では全くない場合，あるいは patient の前に “a” が付いていないことに「おやっ？」と思えば，「patient = 患者」を疑うことができる。それができれば，あとは辞書を引けばよい。辞書にはちゃんと別の意味「patient = 形 ＜人・物などに＞忍耐強い」が出ている。

上の例は，単純な「例」であったが，英語に限らず，どの教科・科目であっても，この「あれっ？・おやっ？」と思うことを大切にして欲しい。そして，この疑問を解決するために「自分で」動くこと。これが，「主体的に学ぶ」ということだと僕は思う。もし，自分で解決できないときには，人に教えてもらいなさい。大事なのは「解決する」ために，まずは「自分で努力をすること」です。

余談ですが，「世の中には，自分で解決できる問題とどうしても解決できない問題があります。自分でどうしようもない問題は人に聞きなさい。そのような問題をどうにかしようと自分の時間を無駄にしないこと。」とは上のエピソードの宿題を出した先生の口癖。今でもたまに思い出す言葉です。

１年時は主に担任の先生方，今年度は主に副担任の先生方にこの裏面を書いて頂きました。それぞれの先生方に，「君たちへの思い」をこの紙面をこめて頂きました。感謝いたします。

鹿児島県立鹿児島中央高等学校

二学年進路だより

進級準備号

※これは１学年の進路指導室だよりです。

Restart

鹿児島中央高等学校合格の知らせを聞いて，あるいは実際に張り出された受験番号を見て，君たちは何を思ったのだろうか。「高校ではもっと勉強をがんばろう」とか，「思う存分部活をしよう」というように，希望とやる気に満ちあふれていたことだろう。

それではすっかり高校生活に**なれた**，現在の君たちはどうか。授業や課題，部活動をただこなすだけの毎日になっていないだろうか。２年生から本格的に高校生活が始まるといっても過言ではない。なぜなら，学習面では**国公立大学２次試験に必要な科目**の授業が始まり，部活動では２ヶ月もすると主力として**チームを牽引**する立場になるからだ。授業も部活動もこれまで以上に**スピーディー**に進んでいく。高校生活において，まさに**リスタート**の次期を迎える。

進級を控えたこの時期にもう一度**初心に返り**，鹿児島中央高校２年生としてどんな１年を過ごすか考えてほしい。

学習計画を立てよう。

鹿児島県の高校生は３月から５月にかけて，模試の偏差値を大きく下げる傾向があるという。理由の１つは行事などの影響で授業数が少なくなることが上げられている。高校入試や春休み，ゴールデンウィークなどで，この時期はそもそも登校する日が少ない。

しかし，偏差値が下がるということは，偏差値を上げている**勝ち組**の高校生がいるということだ。この時期に授業数が少ないのは，全国の高校生も同じである。では，なぜ鹿児島県の高校生は学力を下げてしまい，**負け組**になってしまうのだろうか。

模試を運営する会社の人から聞いた話だが，**鹿児島県の高校生は自己分析力が低い傾向がある**そうだ。この点を改善するために，この１年間，模試の分析をして自ら対策を立てるトレーニングを積んできた。手元にある**１月進研記述模試の反省**を参考に，**学力向上計画**を立ててみよう。そのためには先ず，宿題を済ませるために１日何分，何日くらい必要かを考えよう。宿題は君たちにとって必要な力を身につけてくれるはずだ。その上で自分の**弱点**や**必要な学力**は何かを明確にして，どんな学習が必要か，具体的にどんな教材を使うか考えて，２年生に向けて学力を向上させよう。

鹿児島県にとってはネガティブなデータを例に挙げたが，**鹿児島中央高校生としては３月から５月にきっちり勉強して，勝ち組になりたい**ものである。

探究活動

２年生から探究活動が本格的に始まる。探究活動は**深めれば深めるほど**，返ってくるものが大きい。これくらいでいいやという気持ちでやると何にもならない。

先日，ある大学の先生方と話をしたところ，大学に入学して**１,２年の内に退学する**学生が年々増えてきているとのこと。明確な目的意識を持たずに進学してくるからだろうということで意見が一致した。

探究活動がみなさんの進路選択に対して，大きな影響を与える場合もあるだろう。どれだけ真剣に取り組めるかは，今後の人生にも関わってくるので，春休みなどの余暇活動として準備をしっかりしておこう。